

受動喫煙防止対策に熱心な秋田県。
毎年開催されているフォーラム。
(前列右から3人目が筆者)



Think globally, Act locally!

携しているという。
従って、ノボリやジャケットなども県の予算を使っており、資金面を気にしないような印象を受けた他に、秋田県職員・秋田市職員・県医師会職員・病院関係者・一般開業医・歯科医師・薬剤師・養護教諭など、大人が真剣にフォーラムに参加できる土壌が熟成されていたのは驚いた。
イベント会場では、「こどもがいない?」と思い、そのことに軽い衝撃を受けた。この種のイベントは、成人喫煙者に配慮して、こども中心に対応するものだが、未成年の姿は皆無だった。一般的には、成人の参加は気恥ずかしく、行政自らが動くことは無く、せいぜい後援名義提供に終始するくらいだろう。
言い換えれば、決して公務員が進んで協力できないシステムが構築されているのだ。秋田県他の広域自治体を参考にしない状況は、さすが教育県秋田とも言えるものだった。

「受動喫煙防止秋田フォーラム2014」に参加して 世界規模でものを考え、 身近な地域で活動すべし

加藤一晴 こどもをタバコから守る会・代表

秋田県医師会からの
講師招聘に応じて

「もうすぐ機体は着陸態勢に入りますので、シートベルトをお締めください……」と、キャビンアテンダントからのアナウンスが聞こえた。羽田空港を離陸して、まだ1時間程度なのに、JAL1263便は秋田空港の滑走路に向かって降下を始める。
うっすらと雪化粧をした鳥海山を廻り込むように、飛行場に着陸

した。鳥海山は富士山にそっくりなため、出羽富士とも呼ばれ親しまれている。出羽山系を源流とする雄物川と肥沃な秋田平野は、あきたこまちの産地として全国的に名を馳せている。
秋田平野では、良い気候、良い土地条件、そして稲作栽培の技術レベルが日本トップクラスの農家がそろっているが、ご多分に漏れず県民人口は1カ月毎に1000人ほど減少し、100万人以下になるのも遠くないとのこと。

県庁所在地の秋田市も32万人を割り込んでいて、少子・高齢化社会の間の部分が見え隠れしている。空港ビルに大きな「なまはげ像」があったのが印象的だった。
今回の「受動喫煙防止秋田フォーラム2014」(平成26年11月8日)の主催は、秋田県・秋田県医師会・協会けんぽ、それと任意団体の「秋田・たばこ問題を考える会」である。結局、広域自治体・県医師会などが、「秋田・たばこ問題を考える会」に補助金を出して、提

禁煙外来の人たちの 障害となった「祭り」

筆者が、雄踏地区（浜松市）最大のイベントである息神社大祭に着目したのは、およそ10年前である。時間をかけて禁煙外来でコーピングしても脱落する人が多かった。最大の障壁は「祭り」だった。これを逆手にとって喫煙対策を推進すれば、有害性情報は拡散するので、地域住民には有効と踏んで行動を開始した。

10年前、祭典全体会議で「境内全面禁煙」の話をした時は、各字の代表者は猛反対した。ある自治会長は、「息神社境内はお祭り広場だよ……」と怪訝な表情で言い放った。現状は望ましいものではないが、新しい改革は御免被りたい——これが本音だっただろう。

しかし、息神社大祭がこれからも無礼講・憂さ晴らし的に展開することが、参加者の強固な意思表示というわけではなかった。2004年の健康増進法第二十五条で、「受

動喫煙の防止」が努力義務化された。社務所の無い息神社境内で、受動喫煙が原因と思われる脳血管障害、虚血性心臓病、気管支喘息発作を起こした場合、誰が責任を取るか、治療費はどこから捻出するか、について筆者は問い質した。その時、「連合自治会？」「神主さん？」「氏子総代？」と畳み掛けるように聞くと、「いいや、我々ではない」と一様に首を横に振った。

年ごとに進んだ 息神社境内での喫煙対策

健康増進法第二十五条で対象の「大勢の集まる場所」とは、当然、宵祭り境内や周辺路上と立派な公共空間である。問題は、罰則の有無ではなく、想いの馳せ方であった。「それなら、思い切って喫煙対策をしませんか？」と、筆者が説明の話を披露した後に言ったところ、「そうだな……」という声が拡がって快諾された。

平成17年には、境内3箇所に喫煙スペースを設けた。平成18年は、



おきじんじゃ 息神社と祭典

創建が慶雲2年（705年）といわれる息神社。徳川家康が全国統一した後、慶安元年（1648年）に徳川家光より朱印拾石下付せられ、明治6年に郷社に列する。明治28年5月、内大臣より許可を得、息神社に復帰する。

毎年10月第2土、日に祭典が行なわれる。6台の館車、8台の大太鼓が繰り出す。その大太鼓は直径2.5メートルほどある。土曜日は宵祭りで、夜に神社境内に集まり太鼓の打ち鳴らし、練で賑わう。その後、年番町を先頭に各町の大太鼓・館車が神社より出発し町中を巡行する。夕方、神社へ戻り、境内で太鼓の競演を行なう。



周辺路上の禁煙化要請。平成19年は、鳥居から拝殿までが禁煙措置。平成20年には境内全面禁煙。平成21年には露天商の協力を得て、販売中喫煙禁止を達成することができた。驚くことは、平成19年の鳥居・拝殿の禁煙化は、自治会からの要請によるものだった。

それ以後現在まで、祭典前タウンミーティングが毎年続けられている。それは、地域住民が喫煙・受動喫煙・3次喫煙の知識を得て、健康意識が高揚した証左であろう。息神社が境内全面禁煙に踏み切

東方医学と西洋医学の統合医療

(医)長白会

 タニクリニック

<http://www.taniclinic.com/index.html>

〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-9-1
日比谷サンケイビル3F
TEL: 03-3201-5675
E-mail: mail@tanclinic.com

境内全面禁煙の結果は、参拝者（特に子供）の増加に繋がっている。

継続的な働きかけで掲げた目的を達成する

息神社境内が全面禁煙化となったのは、平成20年であったことは先に述べた。翌年3月、神奈川県で「公共的施設における受動喫煙防止条例」が制定されたが、実は、平成20年10月に3名の神奈川県議会議員を、息神社の祭典に招いていた。

参加した3名の県議会議員は、境内全面禁煙が達成されたことに驚いていた。人が大勢集まっても、誰もタバコに火を点けないことに圧倒されたのだろう。県議会議員のひとり「何故、地図にも載っていないような神社で、このような取り組みができるのか？」と聞いた。筆者は、「地図に載っているような有名な神社仏閣は、とつくの昔にJ-T（日本たばこ産業）が灰皿か喫煙スペースを寄贈している。無名で、地域住民の信仰の篤

い神社であって、自治会のスタンスが素晴らしいから達成できたのです」と答え、継続的な情報発信と住民からのボトムアップ効果であることを強調した。

大勢に一度に情報を与え、考えさせ、行動変容に繋げる手法を「ポピュレーションアプローチ」と言う。キッカケは何でも良いと思う。相手に向上の意欲があつて、将来を見据えた情報発信をすれば、罰則や過料が無くとも目的は達成できるはずだ。

大人はこどもと違い、説得には応じないかもしれないが、納得すれば変わる。それを見据えた働きかけができるかどうかだが、これには継続が一番である。

特徴的なイベントを選んで打ち出したい喫煙対策

秋田県には、横手市のかまくら祭、上杉木内の風船上げ、全国花火競技大会（大曲の花火）、秋田の竿燈まつり、こまち祭りなど特徴的なイベントが沢山ある。

これらの何れかで喫煙対策を開始すれば、地域住民は好意的に受け入れるだろう。少なくとも教育県秋田には、その土壌はできている。

あるいは、なまはげやスギツチを喫煙対策広告塔として起用し、ボトムアップを目指すのも良いかも知れない。はっきりしていることは、何もしなければ旧態依然とした枠組みが継続されるだけである。それは多くの事例が示している。アクションを起こさなければ何も変わらない。波紋は起きるものではなく、起こすものである。特に東北地方には魅惑的なイベントが数多ある。ひとりひとりが将来像を描いて行動し、声を出すことで、世の中は変えられるのだ。これぞThink globally, Act locallyの神髄なのだから。

今回のフォーラムは、秋田県医師会も加わって主催した。これは平成26年1月の広島県医師会に続いたもので、広島は平和の象徴とされる平和公園がある。

つた後、遠方からの視察者が延べ150人を数え、口々に同神社の決定と実践を称賛して帰るという。これにより、主催者は自分たちの指針が正しいことを確信したに違いない。浜松地区最多の参拝者を誇る鴨江観音の露天商に、毎年挨拶に出かけ人間関係を構築し続けている。

こどもたちは境内参拝よりむしろ露天商での買い物を楽しみにしている。境内全面禁煙で露天商も販売中の禁煙が実施されれば、保護者も安心して「参加していらっしやい」と送り出せる。息神社の

秋田県には、日本を代表する竿燈祭りを初め、年間を通じて各種の祭りが行なわれている。竿燈祭りは、約33.5万人の人出で賑わうと言われる。祭りの場を通じ「受動喫煙防止」を呼びかければ、その影響は大きいだろう。神々には、タバコの煙は不浄のものとなるはずで、神社境内と祭りの場における「喫煙の禁止」は当然のことである。

